## 情報システム革新の原点

大渕啓史\* 野村進二\*\*

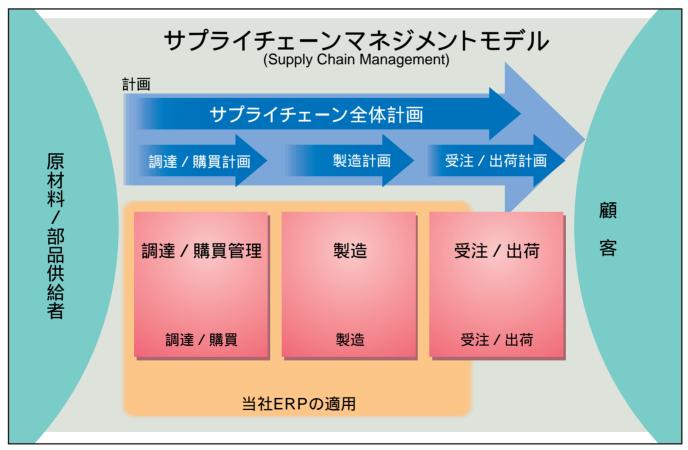
## 要旨

企業を取り巻く環境はますます厳しくなり,事業スピード,価格競争,納期などあらゆる面で優位性を保たなければこの競争に勝ち抜くことが難しい状況にある。その中で,各工場内だけでの合理化活動も限界に近づいており,今後は,顧客と製造(工場)をいかに近づけるかがこの企業競争で勝ち抜くキーとなっている。

三菱電機は、情報システムを構成する各サブシステム及びデータベースの統合化とリアルタイム化を目指し、ERP (Enterprise Resource Planning)パッケージの活用を基本とした情報システム革新を1994年に開始した。その結果として、多数の国内・海外の工場、販社でのERPバッケージの導入を行ってきた。これにより、各工場全体でのリソースの最適化、経営データのリアルタイム化に大きく寄与してきた。

今後さらに,資材調達,製造,販売,物流,またこれらのプロセスに関係する関連会社を含めたサプライチェーン全体での最適化を目指した情報システム化に取り組んでいく必要がある。

ここ数年,同業他社では,抜本的な改革を行う上でのキーパーツに情報化装備を位置付け積極的に活動している状況にある。一方,情報システム化技術は昔のホスト中心型の利用技術から一転し,クライアント/サーバシステム利用技術,通信技術,インターネット/イントラネット利用技術などに急速に変化しつつあり,これらの先進技術を確実に取り込んでいく必要がある。この特集では,現在の情報システム革新状況を紹介するとともに,今後の情報システムの進むべき方向について述べる。



## サプライチェーンマネジメントによる全体最適化

ERPパッケージによるデータベースの統合化・リアルタイム化の次のステップとして,資材の調達,製造,受注/出荷,物流の各プロセス,及びこれらのプロセスに関係する関係会社も含めたサプライチェーン全体の最適化が,企業競争力強化のための最大のポイントとなっている。